

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070401932		
法人名	医療法人 貞元内科医院		
事業所名	グループホーム 馬借		
所在地	〒802-0077 福岡県北九州市小倉北区馬借1丁目6番40号 Tel 093-551-0803		
自己評価作成日	平成 23年06月21日	評価結果確定日	平成23年08月08日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 Tel 093-582-0294		
訪問調査日	平成 23年07月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様1人1人に対する個別ケアに取り組みできる限り希望に沿った生活を送れるように支援している。近くに旦過市場や魚町銀天街、勝山公園などの地域資源があり、散歩や買い物などが行きやすく、利用者の楽しみの1つとなっている。毎月行事を催して家族にも参加していただけるようにしている。積極的に研修に参加しケアに活かしている。毎月1回災害訓練を行い、非常時に備えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小倉の中心市街地の一角に、母体医療法人と隣接して4階建て2ユニットのグループホーム「馬借」がある。「和を重んじ、皆で明るく、地域の中で楽しい共同生活を送る」という理念を掲げ、ホーム長と職員は、利用者と一緒に、買い物、散歩、祭り見物、銀天街のウインドウショッピング等を日課として、毎日が楽しく、生き活きた暮らしになるよう工夫を重ねている。看護と介護の資格を持つ、ホーム長の優しい穏やかな雰囲気、職員全員に浸透し、利用者一人ひとりに合わせた、介護サービスを実践し、24時間母体医療法人と連携を取り、利用者の健康管理は万全である。また、職員の意識と技術の向上を目指し、外部研修参加や他グループホームと、スタッフ交換研修を実施し、職員全員で知識を共有し、質の高い介護サービスを目指し、今後、益々期待が持てるグループホーム「馬借」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ一同、当事業所の理念を念頭に置き日々入居者様により良い生活を送ってもらえるよう努力している。	職員は事業所理念を共有し、運営やケアサービスを提供する上での目標としながら、利用者により良い生活を送ってもらえるよう努力している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物には近くの旦過市場や魚町銀天街を利用し、散髪は近所の理髪店を利用している、又回覧板などは入居者様とスタッフが一緒に隣に持っていき挨拶している。	買い物には近くの旦過市場や魚町銀天街を利用し、散髪は近所の理髪店を利用している。又、町内会に加入し回覧板などは利用者や職員と一緒に隣家に持って行き挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加していただいている。民生委員の方を通じ、町内会等で認知症の方々の理解や支援方法について伝えて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に1度運営推進会議を開催し、会議の中で入居者様の様子等を報告し、困った事などがあれば相談しアドバイスがあれば参考にしてサービス向上に努めている。	会議内容は利用者の状況報告や行事報告、連絡事項が主であるが、困った事案等があればメンバーの助言を参考にしてサービス向上に反映している。今後は更なる活性化に向けて、メンバーに外部知見者の参加を検討中である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	二ヶ月に1度の運営推進会議に参加されているので、その都度実情を報告している。生活保護の方に関する絶えず連絡、報告しアドバイスいただいている。	地域包括センターとは運営推進会議を通じて、また生活保護課とはその都度、電話報告をしたり、出向いての相談や来訪を願うなど、密なる協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切行っていない。定期的に身体拘束について勉強会を行っている。	声かけ・見守りによる安全面の配慮が徹底し、『身体拘束は一切行わない』という姿勢が職員間に浸透している。定期的に身体拘束についての勉強会を実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修等に積極的に出席し、出席したスタッフにより全体ミーティングにて周知徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護に関する研修等に参加し、全体ミーティングにて報告し必要時には活用し支援している。	権利擁護に関する研修に参加し、全体ミーティングで伝達講習を行っている。現在、成年後見制度の利用者と、制度申請中の事例があり、手続き等の支援を行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時は時間を十分にとり、必ず文書と口頭で納得していただけるように説明している。また入院期間が長くなり、病状悪化で退院できない時はその後のことも安心していただけるように相談にのっている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	二ヶ月に1度運営推進会議を開催し、入居者様やその家族に参加していただき意見や要望などをお聞きし対応している。又、日頃よりスタッフ等に話しやすいような雰囲気を作っている。玄関に苦情箱を設置している。	運営推進会議で、入居者やその家族の意見や要望を受け、運営に反映できるよう努力している。また、日頃より職員に話しやすいような雰囲気づくりに努め、意見や要望を聴くようにしている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	責任者や各ユニットリーダーが運営に関する職員の意見を聞き、その都度管理者に伝え話し合いを設け運営に反映させている。	ホーム長は、職員の意見や提案を聴く機会を設け、運営に反映させている。また職員は職務に対するモチベーションが高く、内容のある提言をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	往診に来た際に、職員の勤務状況を把握し、要望等があれば、聞くようにしている。また定期的に食事を開き、日頃のストレスをリセットできる環境を提供している。職員研修に積極的に参加できる環境を整えたり、各自の資格を給料に反映させる等、各自が向上心を持って働けるよう、職場環境、条件の整備に努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては、性別・年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。事業所で働く職員がその能力を十分に発揮し、生き生きと勤務できるよう管理者・責任者が配慮している。又、研修のお知らせをし自由に参加できる環境を整えることで、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるように配慮している。	職員の募集、採用は、性別・年齢等の制限はしていない。職員の休憩時間や休憩場所は確保されており、職員同士のコミュニケーションが、職場の人間関係を良好にしている。外部研修の参加機会も多く、自己実現の欲求が満たされている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修に参加し、内部研修で皆で学ぶ機会を持ち、その後資料を回覧し周知徹底に努めている。	外部研修に参加し、更に内部研修で利用者の人権の尊重と、理念に叶った介護の提供に向けて、職員一人ひとりが理解し、啓発活動に繋がっている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な研修に参加を促し、技術知識の向上に努めている。又、参加できなかった職員には参加した職員が内部研修で報告し、資料を回覧することで、周知徹底に努めている。日常の業務でも相互に注意しあい学べるよう、職員間でのコミュニケーションがとりやすく、働きやすい環境が維持できるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、親睦会や勉強会、職員交換研修等で同業者との交流の機会を持ち、情報交換することで、ネットワーク作りを行い、サービスの質を向上させていく取り組みを行っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面接に行き、ゆっくりと話を聞き、困っている事、不安な事、求めている事等を受け止め、それに対し本人が入居する前までに出来る限り環境を整えることができるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接時、問題点を聞き相談に乗り、問題に対しての解決策を話し合い、安心して生活ができる事を伝えている。また、入居後も問題があれば相談していただき、すぐに問題解決の話し合いができる事も伝えている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様とご家族との話し合いの上、最も必要性の高い支援やサービスを考慮し、対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様とのコミュニケーションを大切に、相手の立場に立って傾聴し考え、尊敬と感謝の心で接している。また、利用者様が得意とされることを職員に話していただけるような場面を作り、一緒に出来ることはないか等ミーティングなどの時に話し合い実行できるようより良い関係作りを努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にも参加していただける行事などを計画し、年に数回実行している。その中で、職員と利用者様の現状を話したり一緒に一部介助等をすることで、時間を共有し楽しんでいただけるよう工夫している。又、病院受診や散歩等、ご家族と一緒に行っていただくなど、関係が途絶えることなく、利用者様と一緒に支えている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様のご家族には毎月1回の御本人の状態報告の手紙や、グループホーム馬借便りを送付し連絡を密にとっている。また、行き慣れた且過市場などに買い物に行き、お店の人との会話を楽しまれている。	家族には、毎月ホーム便りと本人の状態報告を送付し、連絡を密に取り、利用者は、家族の面会を楽しみにしている。また、馴染みの関係が希薄な利用者であっても、行きつけの市場に買い物に行き、お店の人との会話を楽しむ様になっている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の1人1人の性格を把握し、状況に応じて職員が間に入り、コミュニケーションがとれるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近所でお会いした際には話しかけ、様子を伺い関係が無くならないように大切にしている。また、在宅復帰されても再度居室に空きがあれば入居できることを伝え、空きがない場合でも状況に応じて相談を受けニーズに応じた関係機関を紹介する等、利用者様やご家族が満足したサービスが提供できるように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の希望する生活の実現に向けて、生活歴や日々の会話の中からその内容の理解に努め、意向に沿えるよう心がけている。又、困難な場合は其々ユニットミーティング等で話し合い、本人の意向に近づけるよう努めている。	利用者の、一人ひとりの思いや意向に関心を払いながら、利用者の視点に立って丁寧なアプローチをしている。意向の把握が困難な場合でも、ユニットミーティング等で話し合い、本人の意向に近づけるよう努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様からの情報や、御本人との会話から生活歴を理解し、これまでの暮らしの把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人の望む生活のペースを考え、また心身の状態などを把握した上で、毎日出来るだけ個別に対応するよう努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング前に家族より話を聞き、ユニットミーティングでモニタリングを行い、目標を確認している。会議の内容をふまえて計画作成担当者が介護計画書を作成している。	家族より要望や同意を得て、ユニットミーティングでモニタリングを行い、目標を確認の上、計画作成担当者が介護計画を作成している。3ヵ月毎の見直しの他、利用者の変化に応じて、臨機応変に見直している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	新しい介護記録用紙を使用し、利用者様の1日の様子が一目で解るようになった。介護記録やモニタリングを通じ、現状把握に努め、介護計画を定期的に見直している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホーム併設の医院・デイケア・介護支援センター等の協力のもと利用者様やご家族様の要望に応え支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	旦那市場という地域資源を利用しお買い物をしたり、他者とお話しをする事で心身の安定を図る等、一人一人にあった地域資源を利用しながら、楽しく生活して頂けるよう支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特にかかりつけ医の指定がない利用者様は、併設の医院に定期的にご家族もしくは職員が付き添い受診している。他の病院にかかりつけ医がいる場合は、ご家族より受診結果を聞き、必要な場合は介護に取り入れている。内科以外の場合はかかりつけ医にその症状にあった病院を紹介して頂き、ご家族に連絡し受診するようにしている。	利用者や家族の希望を優先し主治医を決め、受診支援をしている。また、母体医療法人の定期的な往診や、緊急時の対応等、主治医と連絡を取りながら、迅速な対応を実践し、24時間の医療連携体制を確立し、利用者の健康管理を実践している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設医院の看護職員と、日々利用者様の状態を相談し、日常の健康管理を支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した際には、病院の医師や看護師、ソーシャルワーカーと連携し、状態把握に努め、出来るだけ早く退院できるように努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時の指定書を作成し、ご家族に記入していただき、利用者様、ご家族、医師と話し合い、方針を確認している。ホームでは24時間医療体制が整っていない為、常時医療行為が必要になった場合の受け入れは現状としては難しい。	病状悪化の場合の緊急時対応希望書を作成し、利用者、家族、医師と話し合い方針を確認している。常時、医療行為が必要になった場合や終末期の支援は現状としては難しい状況である為、地域の医療機関との連携・協力を努めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃より急変時や事故発生時に備え、かかりつけ医に指導や助言を受け実行している。又、ヒヤリハット等を活用し話し合い実行している。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	様々な災害を想定して、定期的に訓練している。又、地域住民の方には運営推進会議などで協力をお願いしている。	スプリンクラーや火災通報装置が設置され、火災以外にも様々な災害を想定した訓練や、夜間想定訓練も実施している。地域住民には運営推進会議などで協力をお願いしているが、訓練の参加までには至っていない。	いざという時の非常災害時に備えて、避難訓練に地域住民の協力を得て、参加してもらうことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけに配慮し、利用者様に対して尊敬の心を持ち話すように心掛けている。権利擁護や虐待防止の勉強会などで尊厳についても職員全体で勉強した。言葉に気を配りプライバシーを守るように心掛けている。	職員の言葉かけや対応に配慮があり、利用者に対する尊敬の念が見られる。権利擁護や虐待防止の勉強会などで尊厳についても職員全員で勉強している。言葉に気を配り、プライバシーを守るように心掛けている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自己決定できるよう声かけし自分の意思を表せるように支援している。職員が勝手に利用者様の思いを先走って決めつけないように職員同士で声かけ防止している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の職員の人数にもよるが、毎日1人1人の利用者様の状態を見ながらその人のやりたい事やできる事を探し支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、洗面できない人には温タオルで顔を拭いてさしあげ髪を梳かしセットしている。男性には髭剃りを声かけし出来ない人には介助している。外出時にはその時々合った洋服選びをお手伝いしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き食器洗い食器拭きなど出来ることをしていただいている。毎日のメニューに利用者様の好みを出来るだけ取り入れ食事の時間が楽しみになるように援助している。食事は職員が作っている。	日々のメニューに、利用者の好みを出来るだけ取り入れ、食事の時間が、楽しみになるように支援している。利用者の体調の良いときには、食事の準備や片付けをしてもらっている。基本的に食事は職員が作っているが、味付け等の調理を一緒に行うこともある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日1人1人の利用者様の食事量や水分量を集計、確認し栄養が偏っていないか検討しサプリメントで補ったり食べる形状を検討してみたり色々工夫し、支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯使用の利用者様には毎食後口腔ケアを声かけし支援している。又、歯磨き拒否ある人には口腔ケア用のスポンジで対応し清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿、便チェック表を利用し利用者様の排泄のタイミングを見計らい声かけトイレ誘導している。利用者様の訴えを大切に出来るだけトイレで排泄できるように支援している。	職員は、排泄チェック表で利用者の排泄パターンを把握し、声かけトイレ誘導を行っている。利用者の訴えを大切に、出来るだけトイレで排泄できるように自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然に排便できるように、食事や水分補給に気を配り、出来るだけ運動を取り入れ身体を動かしていただくように支援している。日常的に便秘が続く利用者様には、かかりつけ医より、便通を良くするお薬などを処方して頂き便秘予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在、入浴日は月・水・金と週3回に設定しており以前よりは利用者様のご希望に沿っているかと思われる。また週3回になったことによりゆっくりと入浴していただけていると思う。	入浴日を月・水・金と週3回に増やしたことで、以前よりはゆっくりと入浴ができ、利用者の希望に沿った支援が出来ている。また、入浴拒否者には、無理強いせず、気長に利用者がその気になるまで待っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日、利用者様の状態を把握し、御本人が訴える時は必要に応じ居室で静養して頂く様にしている。また行事等で疲れた時には、早目に休んで頂く等、個々人の状況に配慮し、気持ちよく眠りにつけるように支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の個人カルテに内服薬について記録し理解している。状態の変化や処方等変わった場合申し送りを行い日誌に記載し職員に伝えるようにしている。又、内服時には飲み終えるまで付き添い飲み残しがないよう確認している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様に応じた支援を心掛け、何か問題が生じた時はその日の職員で話し合い対応している。役割などはミーティングで話し合い実行できるよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日のお天気や職員の数にもよるが、出来るだけ外出の希望には沿えるように支援している。また、行事などで普段行けないような所に行くように支援している。職員だけでの対応が難しい場合は、御家族に協力していただき、利用者様の御希望に沿える様努めている。	極力歩くことを推奨し散歩を毎日実施し、花を愛でながらの気分転換や、買い物や外食等、外出の希望にも沿えるように支援し、年間行事では家族の協力を得ながら、花見やドライブ等、普段行けないような場所への外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近くの且過市場や魚町銀天街などに、職員と一緒に買い物に行きご自身でお財布からお支払いいただき、金銭感覚が無くならないように支援している。また、お小遣いをご家族からホームがお預かりする場合、毎月金銭管理報告書と領収書をご家族に渡し、収支を明確にする事でご家族にも安心していただけるように支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使っていたり。御自分でかけることが出来ない利用者様には職員が介助し取り次いでいる。毎年、年賀状を出している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様にとって馴染みやすい音楽や、心地よい照明・室温・湿度に配慮している。生活感はいインテリアで工夫している。季節感についてはお正月、節分、お花見、クリスマスなどの季節の行事を感じていただけるよう支援している。	居間は居心地よくゆったりしており、利用者に馴染みやすい音楽や、心地よい照明・室温・湿度に配慮している。又、台所が一望でき、茶碗の音や調理の匂いなど家庭的でホッとできる安らぎの空間でもある。トイレや浴室、廊下は清掃が行き届き清潔である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にダイニングテーブルやソファを置き、利用者様に思うがままに過ごしていただいている。また腰痛の訴えある方にはリクライニングの椅子に座っていただいている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には写真や小物など利用者様の好きな物、入居前に使っていた家具や布団等を持ってきていただき落ち着いて居心地良く過ごしていただけるように工夫している。又、入居の際は入居前に出来るだけ早くホームの生活に馴染めるように、居室の環境整備をしていただくよう、ご家族にお願いしている。	写真や小物など利用者の愛着ある物や、入居前に使っていた馴染みの家具や布団等を持ち込み、居心地よくその人らしく暮らせる個性的な居室づくりができています。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	4階建てのため利用者様にはエレベーターを利用していただき、雨の日などは安全に配慮し階段の昇り降りなどをしていただいている。トイレの場所などは貼紙などで表示して解りやすくしている。		